

### 3. 父性母性に関する学生の意識調査

#### (1) 生育歴との関係

研究第2部 斉藤 幸子

嘱託研究員 窪 龍子 (和泉短期大学)

特別研究員 宮崎 叶

#### I 研究目的

父性母性の研究をするにあたり、その定義を明らかにする必要があるが、現在のところ普遍化されたものはない。そこで、子どもを養育する上での父親的行動、母親的行動について現在の大学生がどのような意識を持っているか明らかにする調査を行なった。あわせて家庭での男女の役割分担に対する意識を調査し、育児の場における男性・女性を考える。

#### II 調査概要

1. 調査期間：62年10月～12月
2. 調査対象：東京、神奈川、埼玉、愛知の学生2415名のうち独身、24歳以下の2306名について集計した（有効回答率95.5%）。内訳は4年生大学男子1169名、女子234名、専門学校男子63名、女子236名、短期大学女子604名である。

3. 調査方法：質問紙を在籍大学内の教室で配布し、その場で記入してもらい回収した。

#### 4. 調査内容：

- ① 生育歴（家庭環境・学校教育）
- ② 自分の子の育て方に関する見通し
- ③ 男女の役割分担に対する意識
- ④ 自分の性の受け入れ
- ⑤ 父親的行動、母親的行動に対する意識

#### III 調査結果及び考察

結果（1）は第1報として調査内容①の生育歴と②の自分の子の育て方に関する見通しとの関係について述べる。

#### 1. 対象の概要

- ① 年齢：18歳14.5%，19歳39.1%，20歳32.5%，21歳7.5%，22～24歳5.5%。
- ② 出生地：県庁所在の大都市31.1%，その他の都市43.1%，郡部・町村11.9%。
- ③ 乳幼児期の保育経験：保育園22.4%，共同保育0.5%，幼稚園66.1%，保育園と幼稚園8.1%。
- ④ 兄弟：一人っ子は6.4%。
- ⑤ 出生時の家族形態：三世大家族32.1%，核家族64.6%，父子家庭0.3%，母子家庭0.4%。
- ⑥ 乳児期の母親の就業率：39.8%（パートの4.4%を含む）。
- ⑦ 学校教育：小学校での別学経験は女子の2.2%，中学校では男子1.9%，女子6.7%，高校では男子19.6%，女子30.0%，大学では女子の65%であった。

#### 2. 男女別集計結果

生育歴に関する質問項目より主なものを表1に示した。「赤ちゃんに接した経験の有無」において、 $p < 0.005$ で有意な差がみられ、女子に赤ちゃんに接した経験が多

表1 生育歴

		男子 (1234名)	女子 (1072名)
家庭で男らしく 女らしくと言わ れて育った *	はい	472 (38.3)	455 (42.4)
	いいえ	753 (61.0)	598 (55.8)
	不明	9 (0.7)	19 (1.7)
小学生時代ギャ ングエイジを体 験した	はい	849 (68.8)	740 (69.0)
	いいえ	379 (30.7)	321 (29.9)
	不明	6 (0.5)	11 (1.0)
赤ちゃんに接し た経験の有無 ***	世話した 触った	416 (33.7)	616 (57.5)
	経験なし	714 (57.9)	432 (40.3)
	不明	102 (8.3)	16 (1.5)
	不 明	2 (0.2)	8 (0.7)

かった。接した経験のない者は男子の8.3%に対し女子はわずか1.5%であった。

自分の子育てに関する見通しについて性差があったものを表2に示した。女子に比べて男子に「いいえ」と答えたものが多い項目は次の通りである。「自分の血をひいた子どもが欲しい」「子どもの世話をよくする親になる」「女の子を自己主張できるように育てる」「女の子を自立できる職業を持つように育てる」( $p < 0.005$ で有意差あり)。男子の女の子の育て方に関する保守的傾向が伺える。

表2 子育ての見通しに関する男女別意識

		男子 (1234名)	女子 (1072名)
自分の血をひいた子どもが欲しい ***	はい	1035 (83.9)	978 (91.2)
	いいえ	127 (10.3)	43 (4.0)
	不明	72 (5.8)	51 (4.8)
子どもの世話をよくする親になる ***	はい	818 (66.3)	910 (84.9)
	いいえ	283 (22.9)	68 (6.3)
	不明	133 (10.8)	94 (8.8)
自分の子どもの 保育施設利用 *	保育園	281 (22.8)	195 (18.2)
	共同保育	17 (1.4)	28 (2.6)
	幼稚園	821 (66.5)	742 (69.2)
	保+幼	67 (5.4)	36 (3.4)
	不明	48 (3.9)	71 (6.6)
男の子を家事ができるように育てるか *	はい	799 (64.7)	711 (66.3)
	いいえ	310 (25.1)	224 (20.9)
	不明	125 (10.1)	137 (12.8)
女の子を自己主張できる様に育てるか ***	はい	1118 (90.6)	1030 (96.1)
	いいえ	58 (4.7)	9 (0.8)
	不明	58 (4.7)	33 (3.1)
女の子の自立、職業を持つよう育てる ***	はい	718 (58.2)	765 (71.4)
	いいえ	283 (22.9)	85 (7.9)
	不明	233 (18.9)	222 (20.7)
将来築きたい家庭 ***	単身	37 (3.0)	8 (0.7)
	子なし夫婦	17 (1.4)	7 (0.7)
	夫婦と子1-2人	663 (53.7)	545 (50.8)
	夫婦と子3人以上	202 (16.4)	280 (26.1)
	三世代家族	285 (23.1)	192 (17.9)
	今まで通り親と	6 (0.5)	5 (0.5)
	不明	24 (2.0)	34 (3.2)

将来築きたい家庭では少数派ではあるが、単身、子なし夫婦は女子より男子に多く見られた。

### 3. 「自分の血をひいた子どもが欲しい」と生育歴との関連について

「子どもが欲しい」群と「子どもが欲しくない」群との生育歴の違いを分析した。このうち小学生期の家庭環境との関連を表3に示した。

表3 「自分の血を分けた子が欲しいか」と小学生期の環境

		男 子		女 子	
		欲しい	欲しくない	欲しい	欲しくない
主 導 権	祖 父	86 (8.3)	12 (9.4)	49 (5.0)	2 (4.7)
	祖 母	10 (1.0)	1 (0.8)	10 (1.0)	2 (4.7)
	父 母	855 (82.6)	99 (78.0)	814 (83.2)	28 (65.1)
	母 母	55 (5.3)	8 (6.3)	60 (6.1)	7 (16.3)
世 話 を 受 け た	母 父	911 (88.0)	113 (89.0)	911 (93.1)	39 (90.7)
	祖 母	558 (53.9)	47 (37.0)	505 (51.6)	20 (46.5)
	祖 父	299 (28.9)	24 (18.9)	191 (19.5)	8 (18.9)
	保 母	153 (14.8)	11 (8.7)	85 (8.7)	1 (2.3)
	保 母	12 (1.2)	- ( - )	12 (1.2)	- ( - )
	その他	44 (4.2)	2 (1.6)	46 (4.7)	2 (1.6)
遊 び 相 手	母 父	117 (11.3)	4 (3.1)	237 (24.2)	12 (27.9)
	祖 母	152 (14.7)	12 (9.4)	186 (19.0)	7 (16.3)
	祖 父	53 (5.1)	3 (2.4)	76 (7.8)	3 (7.0)
	保 母	39 (3.8)	2 (1.6)	44 (4.5)	2 (4.7)
	保 母	2 (0.2)	- ( - )	6 (0.6)	1 (2.3)
	手伝い	8 (0.8)	2 (1.6)	14 (1.4)	- ( - )
	兄 弟	415 (40.1)	28 (22.0)	572 (58.5)	22 (51.2)
	近 隣	744 (71.9)	87 (68.5)	767 (68.6)	30 (69.8)
	学 校	591 (57.1)	63 (49.6)	686 (70.1)	27 (62.8)
	その他	19 (1.8)	2 (1.6)	25 (2.6)	2 (4.7)

有意差のみられたのは女子における「家庭における主導権の所在」で、子が欲しくない群の主導権の所在が「父」である割合が欲しいと答えた群に比べて少なかった ( $p < 0.01$ )。

「日常の世話を受けた人」(複数回答)では男子で子が欲しい群に父と答えたものの割合が多い ( $p < 0.005$ )。これは祖母についても同様であった ( $p < 0.01$ )。

「遊び相手」(複数回答)では男子で子が欲しい群に母と答えたものの割合が多かった ( $p < 0.01$ )。兄弟姉妹についても同様であった ( $p < 0.005$ )。

「世話を受けた人」及び「遊び相手」は複数回答可であったが、子が欲しい群は回答数が多かった(○の数が多かった)。すなわち子どもを欲しいと思う群は多くの人と関わりを持って、対人関係の豊かな環境で育ったと言える。幼児期、中学生期、高校生期、現在も調査し

たが、同様の傾向がみられた。

学校教育との関連では、小学校から大学までの共学・別学、性差を強調した教育の有無、など調査したが、分析の結果顕著な差はみられなかった。女子の大学での共学・別学において、「子が欲しい」は別学の方が割合が多かったが、対象の学科が児童・保育関係が含まれていることが関係していると思われる。

#### 4. 「赤ちゃんに接した経験」と子育ての見通しとの関連

表4に示した。表に示したすべての項目の男子において、赤ちゃんに接した経験ない群の「いいえ」と答えた割合が多く、経験のある群との間に有意な差があった。

表4 「赤ちゃんに接した経験」と子育ての見通し

			世話した	触った	経験なし
子どもが欲しい	男 ** *	はい	367 (88.2)	596 (83.5)	71 (69.6)
		いいえ	32 (7.7)	73 (10.2)	21 (20.6)
		不明	17 (4.1)	45 (6.3)	10 (9.8)
	女 ** *	はい	573 (93.0)	388 (89.8)	11 (68.8)
		いいえ	21 (3.4)	19 (4.4)	3 (18.8)
		不明	22 (3.6)	25 (5.8)	2 (12.5)
子の世話をする	男 ** *	はい	303 (72.8)	466 (65.3)	47 (46.1)
		いいえ	76 (18.3)	164 (23.0)	43 (42.2)
		不明	37 (8.9)	84 (11.8)	12 (11.8)
	女 ** *	はい	542 (88.0)	355 (82.2)	10 (62.5)
		いいえ	32 (5.2)	33 (7.6)	3 (18.8)
		不明	42 (6.8)	44 (10.2)	3 (18.8)
男の子に家事	男 ** *	はい	300 (72.1)	444 (62.2)	54 (52.9)
		いいえ	77 (18.5)	195 (27.3)	37 (36.3)
		不明	39 (9.4)	75 (10.5)	11 (10.8)
	女 ** *	はい	392 (63.6)	302 (69.9)	11 (68.8)
		いいえ	134 (21.8)	86 (19.9)	3 (18.8)
		不明	90 (14.6)	44 (10.2)	2 (12.5)
女の子に自己	男 ** *	はい	387 (93.0)	647 (90.6)	82 (80.4)
		いいえ	14 (3.4)	30 (4.2)	14 (13.7)
		不明	15 (3.6)	37 (5.2)	6 (5.9)
	女 ** *	はい	593 (96.3)	415 (96.1)	14 (87.5)
		いいえ	5 (0.8)	4 (0.9)	- (-)
		不明	18 (2.9)	13 (3.0)	2 (12.5)

女子は経験なしは少数であるが、「子が欲しい」「子の世話をする親になる」で「いいえ」と答えたものの割合が経験のある群にくらべて多かった。なおこのように経験の有無では顕著に差がみられたが、「世話をしたことがある」と「触ったことがある」の間では差がなかった。

#### IV まとめ

結果ではまず表1、2のごとく男女間の差が認められた。次に男女別に生育歴などこれまでの経験との関連で「自分の子育てへの考え方」をみると、表3、4のごとく男子においてはその影響が著明であった。